

PGT-A（染色体異数性検査）について

受精卵に染色体異常がないか調べる検査です。

妊娠不成立や流産を繰り返す方は受精卵に染色体異常がある可能性があります。
PGT-Aを行う施設は日本産科婦人科学会に認可されている施設のみで行うことができます。

また、PGT-Aは全ての方が受けることのできる検査ではありません。

日本産科婦人科学会が定める基準に準ずる方のみとなります。

PGT-Aを行うことによって、複数回の妊娠不成立や流産を繰り返す方に妊娠率の向上、流産率の低下が期待できます。

■PGT-A対象者

1. 女性の年齢が35歳以上である夫婦
2. 反復する体外受精胚移植の不成功の既往を有する不妊症の夫婦
3. 反復する流死産の既往を有する不育症の夫婦
4. 夫婦いずれかの染色体構造異常（均衡型染色体転座など）が確認されている不育症（もしくは不妊症）の夫婦

PGT-Aは保険適用外のため、採卵から胚移植まで自費診療となります。

PGT-A対象者であれば、当院で採卵を行った後にPGT-Aを行うことができます。

また、既に凍結胚を当院に保存してある方も凍結保存胚を用いてPGT-Aを行うことができます。

PGT-Aを受けるまで

■当院の診察の予約をしていただきます。

- ・診察券をお持ちでない場合（初診）はお電話よりご予約をお願い致します。
- ・診察券をお持ちの場合はインターネットの予約システムまたはお電話よりご予約をお願い致します。



■医師がPGT-A対象であるか診察をさせていただきます。

- ・対象の方には、説明書、同意書等をご説明し、お渡しさせていただきます。



■PGT-Aを希望される場合

- ・日本産科婦人科学会が作成した動画を夫婦で視聴していただく必要がございます。視聴後に同意書の記入をお願い致します。

日本産婦人科学会ホームページ（PGT-A説明動画）↓

https://www.jsog.or.jp/modules/committee/index.php?content_id=256



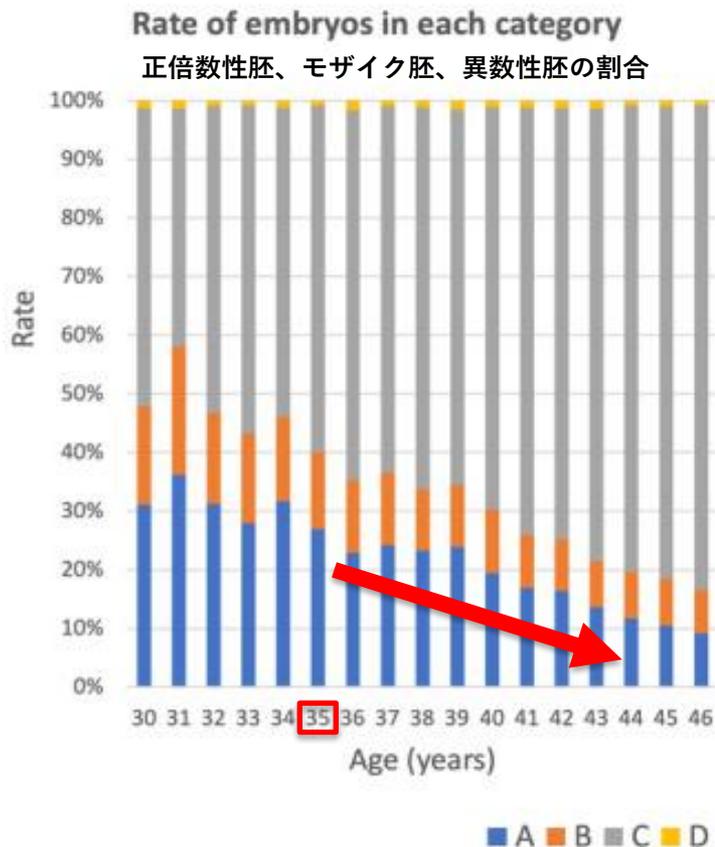
■PGT-Aに向けた治療の開始

- ・同意書のご記入とPGT-Aチェックリストの確認がとれましたら、PGT-Aに向けた治療を開始いたします。

■PGT-A対象者の詳細

1. 女性の年齢が35歳以上である夫婦

年齢の上昇とともに正倍数性胚が減少することが分かっている



最も妊娠率の高い正倍数性胚（■ A）の割合は
年齢の上昇とともに低下する

35歳を境に正倍数性胚の割合が低下し

妊娠不成立や流産に起因する異数性胚の割合（■ C）
が上昇している

- A：正倍数性胚（染色体数が正常な細胞の胚）
- B：モザイク胚（染色体数が正常な細胞と過不足のある細胞が混ざった胚）
- C：異数性胚（染色体数が過不足のある細胞の胚）
- D：解析不能

■PGT-A対象者の詳細

2. 反復する体外受精胚移植の不成功の既往を有する不妊症の夫婦

※生化学的妊娠：妊娠判定陽性だが、胎嚢（赤ちゃんが入っている袋）が確認できなかった

※臨床的妊娠：胎嚢（赤ちゃんが入っている袋）が確認できた妊娠

（例）

生化学的妊娠
（妊娠判定陽性のみ）



生化学的妊娠
（妊娠判定陽性のみ）

胚移植の結果は
他施設の治療
を含みます

妊娠不成立



妊娠不成立

妊娠不成立



生化学的妊娠
（妊娠判定陽性のみ）

連続でなくてよい
体外受精胚移植の不成功の既往が2回以上あることが条件

生化学的妊娠
（妊娠判定陽性のみ）



出産



妊娠不成立

妊娠不成立



臨床的流産



生化学的妊娠
（妊娠判定陽性のみ）

PGT-A
対象

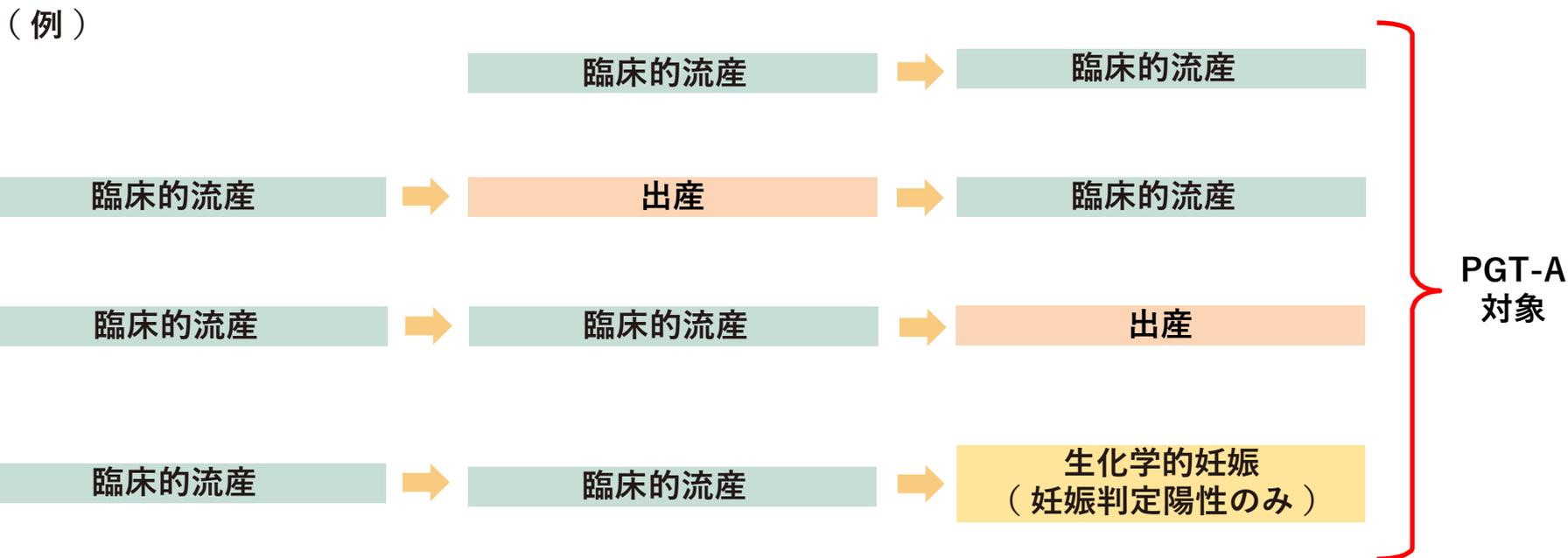
■PGT-A対象者の詳細

3.反復する流死産の既往を有する不育症の夫婦

※生化学的妊娠：妊娠判定陽性だが、胎嚢（赤ちゃんが入っている袋）が確認できなかった

※臨床的妊娠：胎嚢（赤ちゃんが入っている袋）が確認できた妊娠

胚移植、人工授精などの不妊治療に関わらず、2回以上の臨床的流産を経験している



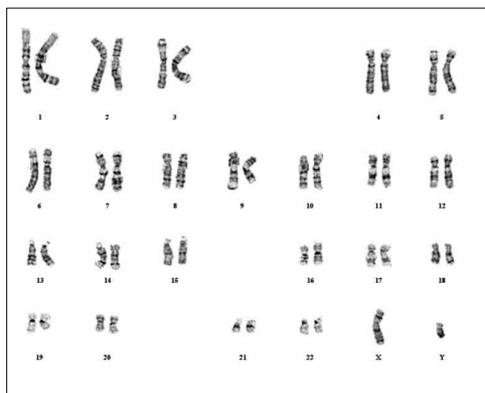
反復する流死産は受精卵の染色体異常が原因である可能性があります。
ぜひ、当院にご相談ください。

■PGT-A対象者の詳細

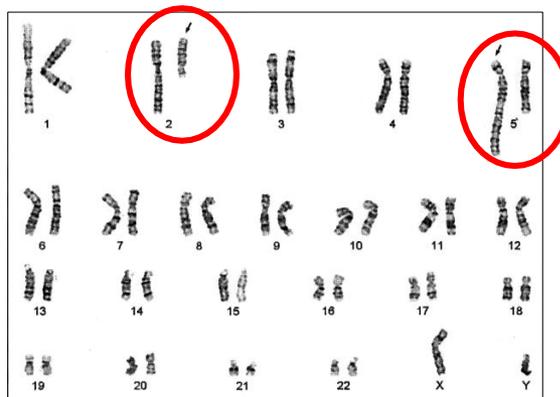
4. 夫婦いずれかの染色体構造異常（均衡型染色体転座など）が確認されている不育症（もしくは不妊症）の夫婦

（例）：異常な染色体構造

正常な染色体構造



2番染色体と5番染色体の染色体均衡型転座



当院で染色体検査を行うことができます

夫婦いずれかに染色体構造異常を持っている場合
[年齢、過去の妊娠の有無、流産の有無、分娩の有無を問わない]

} PGT-A
対象

■染色体均衡型転座による流産

夫婦のいずれかが染色体均衡型転座を持っている場合、受精卵での染色体不均等転座が生じやすくなり、流産を繰り返すことがある。